



シンポジウム

安心で安全な里親支援の方法 -Boys Town、ケンタッキー州の事例から学ぶ-

大阪

2018.9.10 月

10:30-16:00 (10:00 受付)

マイドーム大阪 第1・第2会議室

〒540-0029 大阪府大阪市中央区本町橋 2-5

東京

2018.9.13 木

10:30-16:00 (10:00 受付)

日本財団 大会議室 AB

〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル

主催：一般社団法人日本ボーイズタウンプログラム振興機構 / 協力・助成：日本財団
共催：US-Japan Advanced Skill Training Center、一般社団法人エンパワメント宮崎、オッジヒューマンネット子育て支援プロジェクト、NPO 法人 Com 子育て環境デザインルーム、NPO 法人親支援プログラム研究会、社会福祉法人麦の子会
後援：東京都、大阪府、和歌山県



「安心して安全な里親支援の方法」 - Boys Town、ケンタッキー州の事例から学ぶ - プログラム

主催：一般社団法人日本ボーイズタウンプログラム振興機構

協力・助成：日本財団

共催：US-Japan Advanced Skill Training Center、一般社団法人エンパワメント宮崎、オッジヒューマンネット子育て支援プロジェクト、NPO 法人 Com 子育て環境デザインルーム、NPO 法人親支援プログラム研究会、社会福祉法人麦の子会

後援：東京都、大阪府、和歌山県

2018年9月10日(月) 10:30-16:00
マイドーム大阪 第1・第2会議室
(大阪府大阪府中央区本町橋 2-5)

2018年9月13日(木) 10:30-16:00
日本財団 大会議室 AB
(東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル)

10:30 ∩ 10:45	開会宣言 ご挨拶 堀健一 日本ボーイズタウンプログラム振興機構 代表理事	10:30 ∩ 10:45	開会宣言 ご挨拶 堀健一 日本ボーイズタウンプログラム振興機構 代表理事 高橋恵理子 日本財団 福祉特別事業チーム チームリーダー
10:45 ∩ 11:30	ケンタッキー州の里親ケア - サービス提供者の視点 ケイシー・スイート ユースピリタストレーニング & プロフェッショナル・ディベロップメントディレクター	10:45 ∩ 11:30	ケンタッキー州の里親ケア - サービス提供者の視点 ケイシー・スイート ユースピリタストレーニング & プロフェッショナル・ディベロップメントディレクター
11:30 ∩ 11:45	休憩	11:30 ∩ 11:45	休憩
12:45 ∩ 12:30	ボーイズタウン里親サービスの概要 ステフ・ジャンセン ボーイズタウン コミュニティ・コントラクト ディレクター	12:45 ∩ 12:30	ボーイズタウン里親サービスの概要 ステフ・ジャンセン ボーイズタウン コミュニティ・コントラクト ディレクター
12:30 ∩ 13:40	昼食	12:30 ∩ 13:40	昼食
13:40 ∩ 14:10	施設における CSP の取り組みと、里親支援に向けての今後の展望について 伊東 二三男 社会福祉法人カリタスの園 児童養護施設竹の寮 総主任	13:40 ∩ 14:10	グループホームを支える仕組み 菊池愛 社会福祉法人麦の子会 ジャンプレッツ サービス管理責任者 尾崎尚美 社会福祉法人麦の子会 ホワイトハウス 世話人
14:10 ∩ 14:40	里親を育て里子を守る力 松山泰雄「やっくんと子育て楽しもう会」代表、養育里親、天理教基充分教会 代表役員(会長)	14:10 ∩ 14:40	里親を育て里子を守る力 松山泰雄「やっくんと子育て楽しもう会」代表、養育里親、天理教基充分教会 代表役員(会長)
14:40 ∩ 14:50	休憩	14:40 ∩ 14:50	休憩
14:50 ∩ 15:45	海外・国内シンポジストによるディスカッション・Q&A	14:50 ∩ 15:45	海外・国内シンポジストによるディスカッション・Q&A
15:55 ∩ 16:00	閉会の挨拶 久山康彦リチャード博士 US-JAPAN ADVANCED SKILL TRAINING CENTER 代表理事	15:55 ∩ 16:00	閉会の挨拶 久山康彦リチャード博士 US-JAPAN ADVANCED SKILL TRAINING CENTER 代表理事

「ケンタッキー州の里親ケア - サービス提供者の視点」

ケイシー・スイート

ユースピリタス トレーニング&プロフェッショナル・ディベロップメント ディレクター

プロフィール

危険な状況にいる子どもや家族に対して支援を提供する最も総合的なケンタッキー州最大の施設ユースピリタスのトレーニング&プロフェッショナル・ディベロップメント・ディレクターを務める。ケンタッキー州の危機な状況にいる子どもや家族への支援に20年近く携わり、虐待、ネグレクト、精神疾患、トラウマなどがこういった家庭にもたらす影響を最前線で見してきた。子どもや家族に最善のケアを提供するためには変化が重要であることを重々理解している。個人的にも、ケンタッキー州が集合的な支援方法から家庭ベースの支援に移行する難しさを経験し、この変化に対応するためにユースピリタスを支えてきた。Non-Violent Crisis Intervention、Safe Crisis Management、the Boys Town Psychoeducational Model、Common Sense Parenting、および Trauma-Informed Care にてトレーナー資格を取得。インディアナ大学サウスイースト校心理学部学士。インディアナウエズリアン大学 MBA。

「ボーイズタウン里親サービスプログラムの概要」

ステフ・ジャンセン

ボーイズタウン コミュニティ・コントラクト ディレクター

プロフィール

ボーイズタウンに 2003 年に入社後、ナショナル・リソースとトレーニング・センター部門に携わる。1995 年から中学校教師、リーディング・スペシャリスト、スクール・コンサルタントとして教育の分野でも活躍していた。ボーイズタウンでの 14 年間、国内外の外部トレーニング契約を担当。精神病院から学校やペアレンティングプログラムまで幅広い団体と連携をとってきた。現在は教育の分野や培ってきた経験を活かして世界中で活躍している。行動や社会スキルに関する著書 4 冊。

ボーイズタウン教育モデルプログラムの特徴

- 安全性、パーマネンシー、健康と幸福
- 家族の関わり
- 最も近い人たちが主に変化を与える
- 行動中心
- 個別化されたスキル習得
- 再現可能、結果重視のプログラム
- 内的、外的な要素の組み合わせ

ボーイズタウンモデルの要素

-  **スキル指導**
-  **健康的な関係構築**
-  **宗教と信仰のサポート**
-  **肯定的な家族環境**
-  **自己決定の促進**

里親サービスプログラムの特徴

- 子どもの安全性、パーマネンシー、健康と幸福が保証されている。
- 里親は子どもにとって主に変化を与える人物である。
- 介入は子どもの強みをベースに決められて、個別化される。
- 治療と意思決定はデータに基づき、家族を中心に考えられ、子どもに焦点を当てている。
- 個別化されたコンサルテーションと支援は里親とコンサルタントに提供される。
- サービスとパーマネンシー目標はコンサルタントが率いるチームが一丸となって達成する。

「ボーイズタウン里親サービスプログラムの概要」

ステフ・ジャンセン ボーイズタウン コミュニティ・コントラクト ディレクター

役割の定義

- 里親
- コンサルタント
- スーパーバイザー

里親サービスの目的

- 関わりを持たせる
- ラポール形成
- アセスメント
- 介入
- 進捗状況の評価

成功への鍵—トレーニング

- | | |
|------------------|----------------|
| • コモンセンスペアレンティング | • 安全な環境作り |
| • 里親の役割 | • グリーフ、喪失、トラウマ |
| • マッチングの手順 | • リスク因子と保護因子 |
| • 里子と移行期 | • 危機回避と介入 |
| • 行動のABC | • 社会スキル指導の紹介 |
| • アタッチメントと分離 | • 動機付けシステム |
| • ラポール形成 | • 子どもの進捗状況の評価 |
| • 子どもの発達 | |

「施設における CSP の取り組みと、 里親支援に向けての今後の展望について」

伊東 二三男

社会福祉法人カリタスの園 児童養護施設竹の寮 総主任

プロフィール

竹の寮入職（昭和 61 年 2 月）～現在に至る 勤続年数 32 年

CSP導入前の支援について

- 気合と根性 ● 力による支援(命令、否定、禁止)
- 野球で結果を残す



CSP導入前の支援について

- ほとんどの職員が子どもに対して命令、否定、禁止の支援
- 施設内体罰や虐待が全国的に報道されると
 - ・施設における研修や周知
 - ・子どもから職員への言葉
 - ・子ども達は権利ばかりを主張し、職員の指示も聞かずに荒れる。
 - ・毎年子ども、職員への虐待に関するアンケートの実施
 - ・職員は支援方法がわからない

CSP導入前の支援について

- 発達障がい児や被虐待児に対する支援の困難さ
- 子ども間の力による暴力発生
 - ・平成17年5月
 - ・平成26年7月

「施設における CSP の取り組みと、里親支援に向けての今後の展望について」

伊東 二三男 社会福祉法人カリタスの園 児童養護施設竹の寮 総主任

～カリタスの園竹の寮での取り組み～
神戸少年の町ペアレンティングプログラム導入

- きっかけは1人の男の子。
- 力の支配による問題発覚。
- 「呼び捨てをしない。くん・さんをつける」からスタート!!

* 24年度

- 神戸少年の町ペアレンティングトレーナー6名が誕生
- 主に月2回の会議の場を利用して園内研修の実施
 (職員会議:15分 ケース会議:30分)

実践計画 (24年度)

月	日	会議名		担当
9月	4日	職員会議(15分)	わかりやすい(具体的な)コミュニケーション	峯崎
	18日	ケース会議(30分)	良い結果・悪い結果	
10月	2日	職員会議(15分)	効果的な妻め方	Sr.山田
	16日	ケース会議(30分)	予防的教育法	
11月	2日	職員会議(15分)	問題行動を正す教育法	玉谷
	20日	ケース会議(30分)	自分自身をコントロールする教育法	
12月	5日	職員会議(15分)	事例(6つのステップに当てはめる練習)	前原
	18日	ケース会議(30分)	事例(6つのステップに当てはめる練習) 担当ホーム: はなみずき・サイトビー	
1月	10日	職員会議(15分)	事例(6つのステップに当てはめる練習) 担当ホーム: かしのみ	
	22日	ケース会議(30分)	事例(6つのステップに当てはめる練習)/テスト 担当ホーム: ひのき・フェニックス	
2月	4日	職員会議(15分)	事例(6つのステップに当てはめる練習) 担当ホーム: ひまわり	

だけど支援に生かされない……



② 朝会・昼会の実施

現在竹の寮 幼児版指導者：初級17名 上級11名 管理者4名
 学齢期版指導者：初級8名

朝会：子どもに対してどの教育法を用いて支援を行ったかの報告・FB

昼会：セッションの講義とスキル練習

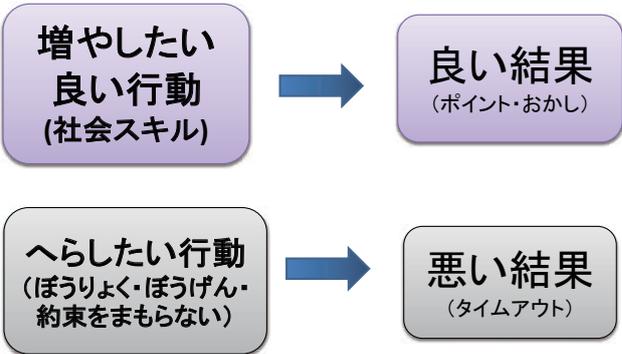
6月の朝会・昼会スケジュール

日	種別	担当	時間	内容
1	朝会	幼児版指導者	08:30-09:00	朝会
2	朝会	幼児版指導者	08:30-09:00	朝会
3	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
4	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
5	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
6	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
7	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
8	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
9	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
10	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
11	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
12	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
13	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
14	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
15	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
16	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
17	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
18	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
19	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
20	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
21	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
22	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
23	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
24	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
25	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
26	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
27	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
28	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
29	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会
30	朝会	学齢期版指導者	08:30-09:00	朝会

竹の寮 結果について



結果(けっか)について



どうして、どのホームでも用いる結果を一緒にするの？

- フェアにする(ホームによって差が出ないようにする)ためです
- もちろん年齢によって、結果のサイズは変わります

ターゲットスキル ※「許可を得る」「助けを求める」「落ち着く」「いいえをうけいれる」

⇒これまで通り、**2ポイント**もらうことができます！

配慮(はいりよ)行動
※だれか、またはみんなのために行動する

⇒ターゲットスキルと同じく、**2ポイント**もらうことができます！



日課(につか) ※みんながいつもすること

おいのりの時間(6:10)までにおきる
社会スキル:じかんをまもる
しじにしたがう

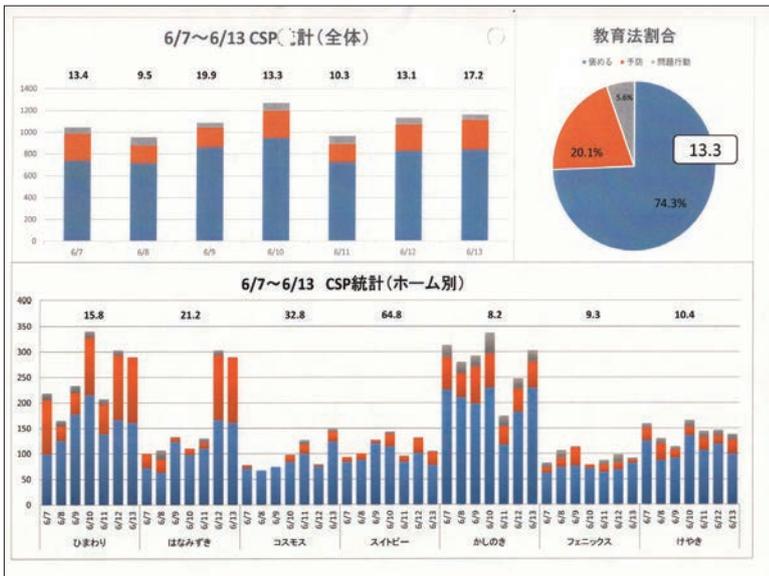
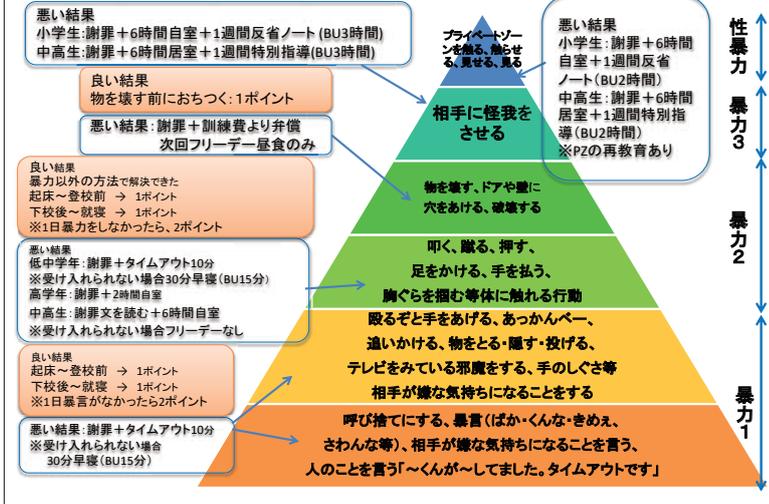


じぶんで起きた →2ポイント

「2分前」「おきる時間です」の
声かけでおきた →1ポイント

30ふんはやね
※すぐ受け入れたら
バックアップで15ふんになる

暴力と結果



6月まとめ記録

施設長	総主任	部長	ホーム長	ホーム職員

児童名: 学年: 小1 担当名: 芳野 亜里紗

各教育法の状況	月	日	構成比率/比率
効果的なほめ方	937	31.2	72.0%
予防的教育法	250	8.3	19.2%
問題行動を正す教育法	111	3.7	8.5%
自分自身をコントロールする教育法	3	0.1	0.2%
合計	1301	43.4	8.2 : 1

今月のターゲット: 許しを得る	目標: 8 / 10	実績: 5 / 10
紙を渡したい時は「(真顔)紙を渡してもいいですか」と許しを得ます	結果: 2ポイント	3 / 週
何をする時には「○○してもいいですか」と許しを得ます	結果: 2ポイント	2 / 週
	結果:	/ 週
		5 / 週

● 効果的なほめ方
 ● 予防的教育法
 ● 問題行動を正す教育法
 ● 自分自身をコントロールする教育法

来月のターゲットスキル: “だめ”を受け入れる
 ゲーム途中で罰金をいたたき、自分の思った事ややりたい事に対し「だめ」や「できません」等と断られると「何でよ」と受け入れる事が難しいことから「分かった」と言って受け入れられるよう繰り返し練習と予防を行っていく。

「施設における CSP の取り組みと、里親支援に向けての今後の展望について」

伊東 二三男 社会福祉法人カリタスの園 児童養護施設竹の寮 総主任

H27 年度 職員アンケート調査・結果(抜粋)

<提出率> 30 名中(施設長・主任・昨年度退職職員 2 名を除く)、29 名提出

○昨年度より短冊、朝会、昼会、T ポイントカードを導入しましたが、子ども達の変化はみられましたか。 ※2 名無記入

みられた	25
みられなかった	0
わからない	2

(どのような変化?)

- ・よく挨拶をするようになった。
- ・人に対しての配慮が多くなり、声かけ、児童からの「仕事お疲れ様です(スイトビー)」に心癒されるようになった。
- ・以前より「～します」「～しました」等の報告が増えている。日課等を通して以前取組の悪かった部分の改善も見られた。
- ・子ども達がみられているという自覚が出ていて、認められることを喜び、ルール等も守れるようになってきた。
- ・適応行動が増えてきていると思う。落ち着く時間が早くなってきている。自分で落ち着こうとする行動が見られる。
- ・ここ数か月、小学生の身長伸びが自覚し、遊びや言動においてものびのびを感じ、笑顔を見る回数が圧倒的に増えている。中学生においても進歩から見た感じであるが、特にスイトビーの子ども達が普通の女子中学生の女の子らしく見えるようになった。全体的に、この1年子ども達が心身共に成長している様子がうかがえる。これは子ども達の心からフレッシュ感が外されて行っていることの表れではないか。
- ・子ども達に声掛けをする時、職員の統一した声かけになるので子ども達も受け入れがスムーズになったし、問題行動があった時に悪い結果とかタイムアウト、離れる等の今までになかった統一した声かけすることで長引くことも少なくなり、とてもよくなり、落ち着いた生活ができていていると思う。

○同様に、先生方自身の変化はありましたか。 ※3 名無記入

あった	23
なかった	0
わからない	3

「あった」と回答→どう思うか

- ・意識的に褒める事が多くなった。子どもの良い行動をよく見るようになった。
- ・感情的になってしまう機会が減った。
- ・子ども達に伝わりやすい、言葉等を改めて考えるようになり自分からも「～わかる?」と子ども達に確認し、「教えてくれて有難う」と話すことも多くなった。
- ・ステップを使えるようになった。短冊を書くことで1日の振り返りができ、「～すればよかった」「～と伝えればよかったな」「結果が大きかったかな」と考える時間が増えた。
- ・CSP を取り入れたことで気持ち的にも楽になった。どのような支援をしていくのか全体で統一できている様に感じる。
- ・子ども達と接したり、声かけすることや、子どもの機嫌的な態度に対しても適した対応ができる事が多くなったのでトラブルも少なくなり、職員同士の会話でもこの指導の説明や引継ぎがスムーズで分かりやすくなったと思う。
- ・短冊があることで意識して声かけするようになったかなと、T ポイントも押すことで褒めることも増えるし、これはどの社会スキルかな、これが出来たな、と褒めポイントを探して声かけすることができるなと思いました。

平成28年度 職員アンケート調査・結果(抜粋)

資料③

<提出率> 37 名中 36 名提出

○今年度の取り組み(短冊、朝会・昼会、T ポイントカード、援助計画シート等)を経て、子ども達の変化は、見られましたか? ※1 名無記入

みられた	30
みられなかった	1
わからない	5

(どのような変化?)

- ・声掛け、会話が増え、人への配慮が多くなった、物事への関心が多くみられ身につけてきているように思う
- ・積極的にポイントをもらうために、いい行動をおこなう児童が増えた
- ・結果が浸透してきており、ホーム内での統一性がみられるようになってきた
- ・子どもが悪い行動を繰り返すことが少しずつ減ってきた。以前より素直に結果を受け入れるようになってきた。
- ・職員が子ども達への同じ声掛け、同じ結果が使えるので子ども達も理解でき、指示が入りやすくなりました。Pが増えるのを楽しみに、行動がみられるようになりました。お菓子をしていただく喜びとともに事務所で態度もよくなりました(礼儀)。
- ・子どもが自分の気持ちの表現が上手になった。「褒められるのうれしい」と今まで言わなかった子にいわれた。
- ・暴力的行動が激しくなる前の段階で落ち着くための行動へ移れることが増えているように感じている。そのため、大きないきおいを耳にすることが減っている。
- ・子どもたちとの TP に関してもターゲットスキルなどを言えないこともあったが、今は少しずつ言語化してきて楽しそうに事務室に来ている。

○同様に、先生方自身の変化はありましたか。※3名無記入

あった	23
なかった	0
わからない	10

「あった」と回答—どういう風に変わったと思うか

- ・より冷静になり、イライラしていても自分の言おうとしている言動と相手の児童の反応を先読みして何を伝えるか選択できるようになった。
- ・使うタイミングが「いま、これをつかおう」と余裕が持てるようになった。
- ・子供のいい行動を当たり前と思わず、1つ1つをほめることでいいところが目につくようになり、気持ちが楽になった。
- ・落ち着くスキルを行うこと、他ホーム職員に助けを求める等支援が難しい状況で一人で抱え込まないようにしました。
- ・児童が興奮しているときに落ち着いて児童に指示を出すことができるようになってきた。
- ・変化というか、自分自身がマンネリしてきたと思う。
- ・1日の短冊を振り返り、ほめる回数の少ない子どもを明日は持っていいところを見つけてほめようと意識づけることができた。
- ・児童の自発的な行動に感動することがあり、CSPを継続する良さを感じることができた。

活動名	ドコモ市民団体活動への助成事業 里親のための親教育プログラムと フォローアップ指導	活動責任者	一般社団法人 エンパワメントみやび
実施日時	平成28年9月29日、10月7日、13日、27日、11月10日、17日、12月1日、平成29年1月16日		
実施場所	カリタスの園 竹の寮		



CSPプログラムの様子



CSPプログラムの様子



参加証明書授与



保育の様子

里親育児プランニングについて

目的

里親支援の一つとして、CSP研修を実施しながらマッチングから里親委託後のアフターケアを行う。

概要

CSPセッション1～7を講義し、委託後も困り感や問題行動があった場合、CSP育児プランを用い、適応行動を増やししながら支援していく。

記

1. 実施期間 平成30年7月15日(日)～9月末まで
2. 時 間 午後6時から(20分～30分間)
3. 場 所 カリタスの園竹の寮(面会室)
4. その 他 委託後は、家庭訪問の機会を利用しながら実施する
(家庭訪問の日程については、相談しながら実施していく)

「グループホームを支える仕組み」

菊池愛

社会福祉法人麦の子会 ジャンプレッツ サービス管理責任者

尾崎尚美

社会福祉法人麦の子会 ホワイトハウス 世話人

プロフィール

菊池愛

保育士資格を取得後、平成21年に社会福祉法人麦の子会に入社。生活支援員として業務に従事し、現在はCSP上級トレーナーの資格を取得し、マネージャーとしてジャンプレッツやグループホームのSVを行なっている。

尾崎 尚美

発達障がいのある息子と一緒に、むぎのこに母子で通う。そこで母子共にたくさんの支援を受けることで、支えられる側から支える側としてむぎのこで働き始める。現在はCSP管理者の資格を取得し、グループホームのスタッフとして障がいのある方々の地域での暮らしを支え、他のスタッフの支援も行っている。

◎グループホーム・オリーブでKさんの支援を通して 見えて来たもの

Kさんのアセスメント

- ・3歳で自閉症と診断を受けむぎのこに通い、16歳からグループホームで生活。
- ・母親からの「暴言、暴力、ネグレクト」があった。
- ・現在22歳、日中はジャンプレッツアクティビティーセンターに通っている。
- ・3年程前から、ツバ吐き、椅子から衝動的に飛び降りる、他者への突き飛ばし、自傷行為等が毎日見られるようになった。
- ・職員も1対1で対応しなければ、本人、周りの安全を守れない。
- ・職員が左右につかなければ、ジャンプレッツアクティビティーセンターでも活動することが難しい。
- ・グループホームでは椅子を倒す、人の部屋に入り物を落とす。
- ・気持ちが通じない時に、突き飛ばしや平手打ちで表現する。
- ・睡眠時間が2～3時間しかとれない。

◎Kさんに対するジャンプレッツアクティビティーセンターの支援

- ・問題行動ではなく、適応行動に注目する。
- ・肯定的に関わるために記録をする。
- ・他害があった場合は、落ち着くために医務室に移動する予防的教育法を練習し、謝る事を伝えた。
- ・集団ではなく、個別活動を多くした。
- ・行動の切り替え時に他害があるので、スケジュールの見直しをもたせ、また2対1で対応した。

◎トレーニングセンターの取り組み

- ・トレーニングセンターの管理者による、グループホーム職員へのCSPトレーニング

- ・3名のグループホーム職員がCSP管理者検定に参加

◎コンサルテーション

- ・本人がガーデニングの時の表情が良かったと言う事で、適応行動を増やしていくために、本人に同意をとり、花の水やりを仕事とした。
(堀先生SVにより)
- ・病院と連携して処方される薬を変えてもらうことで、睡眠時間も確保することができるようになった。
- ・連絡ノートを作り、ジャンプレッツアクティビティーセンターとグループホームで活用する事で、24時間、充足率(関わり)と比率(ほめ率)を高める支援を行なっていく。

・新連絡ノート

・ジャンプレッツアクティビティセンターとグループホームで連絡ノートを引き続き活用

・共通のターゲットスキルを予防練習し、出来たら職員全員で褒める

・社会スキルを記入した

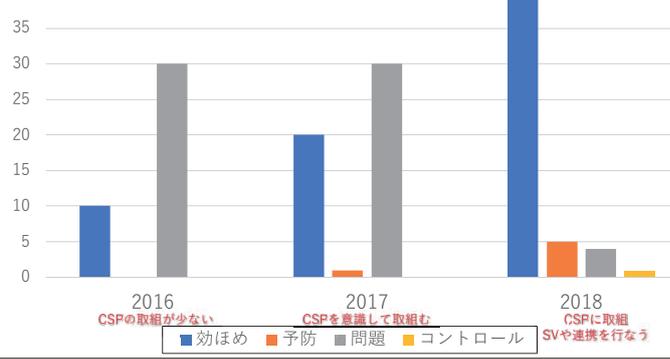
・+, -, Pで評価する

日誌 (ジャンプレッツ)			日誌 (オリーブ)		
項目	進捗	評価	項目	進捗	評価
① 支援職員と対応しようと思える	社会スキル	評価	① 対応しようと思えておられる	社会スキル	効率的
② 職員に指示を出し、サポートを受ける	社会スキル	評価	② 職員に指示を出し、サポートを受ける	社会スキル	効率的
③ 職員に指示を出し、サポートを受ける	社会スキル	評価	③ 職員に指示を出し、サポートを受ける	社会スキル	効率的
④ ロールの使用の仕方を知る	社会スキル	評価	④ ロールの使用の仕方を知る	社会スキル	効率的
⑤ 初期のスケジュールを覚える	社会スキル	評価	⑤ 初期のスケジュールを覚える	社会スキル	効率的
⑥ ジョブカードの読み取りができる	社会スキル	評価	⑥ ジョブカードの読み取りができる	社会スキル	効率的
⑦ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑦ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑧ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑧ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑨ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑨ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑩ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑩ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑪ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑪ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑫ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑫ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑬ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑬ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑭ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑭ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑮ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑮ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑯ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑯ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑰ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑰ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑱ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	評価	⑱ 作業の順番の順番を知る	社会スキル	効率的
⑲ ジョブカード	社会スキル	効率的	⑲ ジョブカード	社会スキル	効率的
⑳ 予防練習	社会スキル	効率的	⑳ 予防練習	社会スキル	効率的
㉑ 問題行動を減らす	社会スキル	効率的	㉑ 問題行動を減らす	社会スキル	効率的
㉒ 高次コントロール	社会スキル	効率的	㉒ 高次コントロール	社会スキル	効率的
㉓			㉓		
㉔			㉔		
㉕			㉕		
㉖			㉖		
㉗			㉗		
㉘			㉘		
㉙			㉙		
㉚			㉚		
㉛			㉛		
㉜			㉜		
㉝			㉝		
㉞			㉞		
㉟			㉟		
㊱			㊱		
㊲			㊲		
㊳			㊳		
㊴			㊴		
㊵			㊵		
㊶			㊶		
㊷			㊷		
㊸			㊸		
㊹			㊹		
㊺			㊺		
㊻			㊻		
㊼			㊼		
㊽			㊽		
㊾			㊾		
㊿			㊿		

1日の平均問題行動の推移



教育法の回数の推移



「グループホームを支える仕組み」

菊池愛 社会福祉法人麦の子会 ジャンプレッツ サービス管理責任者、尾崎尚美 社会福祉法人麦の子会 ホワイトハウス 世話人

Kさんの現状

- 人を呼ぶ際には1の力で肩を触る事を決めて、一致させて予防的教育をおこない、効果的に褒める事で、気持ちを伝える事が出来るようになった。
- 移動の時やソファに座っている時に他者への突き飛ばしがあったが、好きなテレビを見たり、他の入居者と会話を楽しむなど、落ち着いている時間が増えてきた。
- ジャンプレッツアクティビティセンターの集団活動に参加し、仲間と楽しみを共感し、歯を出して笑う事が多くなった。
- 職員が気持ちを代弁するとうなずき、本人の気持ちを伝えてくれるようになった。

まとめ

- グループホームとジャンプレッツアクティビティセンターで教育法を統一させた事で行動に改善が見られた。
- トレーニングや、サポートセンター、コンサルテーションによるサポートによって支援が共有化した。
- 花の水やりをおこない、適応行動を増やすことで、コミュニケーションを取る時間と褒める回数が増えた。
- 毎日管理者がスキル練習を行なう事で、ステップを意識して教育法を使えるようになった。
- 連絡ノートによって行動に焦点をあて、関わりがより明確化し教育法を使う回数が増えた。

「里親を育て里子を守る力」

松山泰雄

「やっくんと子育て楽しもう会」代表、養育里親、天理教基充分教会 代表役員（会長）

プロフィール

平成 17 年に里親登録し、養育里親として活動。平成 29 年 12 月に「やっくんと子育て楽しもう会」を開設。

「里親を育て里子を守る力」

松山泰雄「やっくんと子育て楽しもう会」代表、養育里親、天理教基充分教会 代表役員（会長）

里親を育て 里子を守る力

“やっくん”と子育て楽しもう会
代表 松山泰雄（養育里親）

滋賀県野洲市



里親を始めたきっかけ

- 個人が尊重され、家庭というプライベート空間が、ますますブラックボックス化するなかで、その家庭に里子を受け入れるという「里親」に大変興味を持ちました。



最初の里子を迎えて

- 4人の実子の中に、里子を迎えて、超多忙な日々。でも、血のつながらない家族を迎えて、充実した毎日です。



CSPと向き合って



- 『適切な期待値』
- 『育みの行動』
- 『見せて話す』
- 『良い結果・悪い結果』
- 『効果的なほめ方』
- 『予防的教育法』
- 『問題行動を正す教育法』
- 『自分をコントロールする教育法』

- CSPのプログラムは、私の子育ての何が悪くて、何が不足しているのかを、明確に、そして詳細に教えてくれました。

再び里子を迎えて



- 紆余曲折があったお陰で、ボーイズタウンのプログラムに向き合うことができ、里親としての喜びを味わっています。

「里親を育て里子を守る力」

松山泰雄「やっくんと子育て楽しもう会」代表、養育里親、天理教基充分教会 代表役員（会長）

➡ 里親には、代替養育の担い手として、
いよいよ期待が高まっている。

改正児童福祉法の理念を具体化

新しい社会的養育ビジョン

新たな社会的養育の在り方に関する検討会

平成29年8月2日

➡ 潜在的な里親家庭候補は全国に約100万世帯

「里親」意向に関する識・実態調査

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

2018年1月30日 日本財団

「里親」意向に関する識・実態調査

里親になってみたい意向者は約4%
潜在的な里親家庭候補は全国に約100万世帯

児童福祉法の改正を受けて2017年8月に厚生労働省が発表した「新しい社会的養育ビジョン」では、児童福祉法についても両学定70%以上（概ね7年以内）、卒業後10年以上（概ね10年以内）とする自治体設置が進められており、そのための約1万2000人の子どもの里親に育成が必要であると試算されています。日本財団（東京本部）は、今後の増える児童里親のニーズに対応することを目的として、2017年11月、全国の20代～60代の親友を対象に、「里親」意向および認識についてアンケート調査を実施しました。

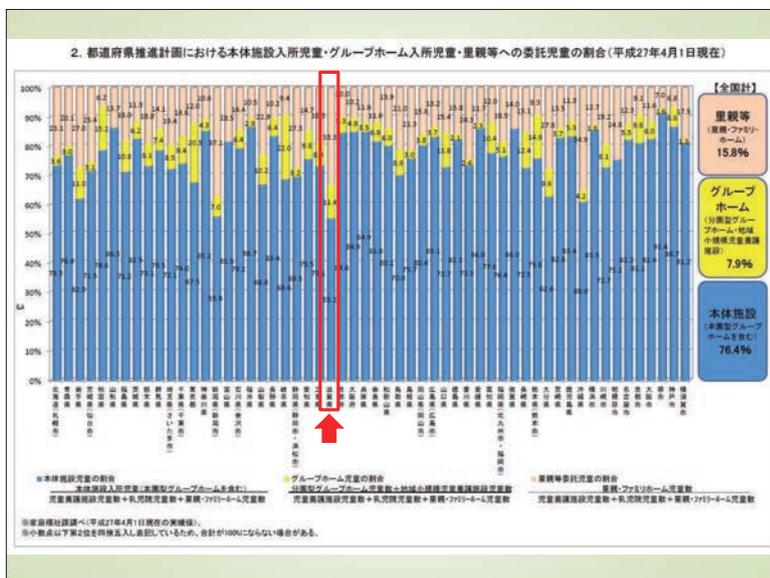
調査結果の概要

- 20代～60代の親友の4.2%が「里親になってみたい」「どちらかというと思える」と答えている。
- 里親の意向については大半が「名前を聞いたことがある程度」と答えており、里親への具体的なイメージが乏しいことがわかった。
- 里親になる意向がある人も、詳細な心配や、子どもが来るまでの準備ができていない。
- 里親の意向が広がる背景をみると、里親が受け入れやすい環境を整えることが、潜在的な里親家庭候補を増やすことにつながる可能性がある。

里親になってみたい意向者は約4%

調査の結果、4.2%が里親になる意向がある。この意向は「どちらかというと思える」と答えている。

※ 本調査は、東京23区を調査対象とした調査結果を示しています。 ※ 参考資料）
① 児童福祉法（第22回法務省法制審議会児童部会第2回第1分科会報告書）
② 児童福祉法（第22回法務省法制審議会児童部会第2回第1分科会報告書）



里親の置かれている現状

- 委託後の支援が不十分で、自分から求めない限り、有効な支援は得られない。
- 圧倒的な孤立感と不安の毎日の中で、里子の問題と格闘する必要がある。
- 訪問面談や、レスパイト・ケアなどの個別支援もあるが、充分機能しているとは言えない。

里親の養育への考え方

- 自分の養育の質を振り返って考えたり、専門性を培ったり、という里親は少ない。考えたとしても、実子を育てた経験や、社会的な実務経験だけを根拠に、「自分のやり方で育ててみせる」という、他人から評価できない既成概念で固まっている人が多い。

CSPで育てられた里親

- CSPのプログラムは、徹底的にスキル練習を行う事に重点が置かれている。
- スキル練習は、セットアップからフィードバックに至るまで、もっとも効果的に行えるように組み立てられている。
- CSPの講座に足を運ぶだけで、プログラム通りにスキルを使えるように、練習を重ねることができる。

「里親を育て里子を守る力」

松山泰雄「やっくんと子育て楽しもう会」代表、養育里親、天理教基充分教会 代表役員（会長）

スーパーバイズによる指導

- 課題は社会スキルを教えること。
- 1. 里子の問題行動を抽出。
- 2. 適応行動を明確に。
- 3. ターゲットスキルを選ぶ（5個）。
- 4. 記録を取り1週間ごとにFBを受ける。
- 5. 教育法の充足率、比率を振り返る。

使った教育法は記録する

教育法記入表 2018 月 日 部署

1=	2=	3=	4=	5=	1=	2=	3=
6=	7=	8=	9=	10=	4=	5=	6=
1 児童時間	教育法	スキル	結果	行動	職		
2	ほ・予・問・コ	指・い・人・ア・ 換・配・許・助・運	注・ス・LVや・元 タ・手/1・2・3	起・食・登・学・下・宿・遊・自・就			
3	ほ・予・問・コ	指・い・人・ア・ 換・配・許・助・運	注・ス・LVや・元 タ・手/1・2・3	起・食・登・学・下・宿・遊・自・就			
4	ほ・予・問・コ	指・い・人・ア・ 換・配・許・助・運	注・ス・LVや・元 タ・手/1・2・3	起・食・登・学・下・宿・遊・自・就			
5	ほ・予・問・コ	指・い・人・ア・ 換・配・許・助・運	注・ス・LVや・元 タ・手/1・2・3	起・食・登・学・下・宿・遊・自・就			
6	ほ・予・問・コ	指・い・人・ア・ 換・配・許・助・運	注・ス・LVや・元 タ・手/1・2・3	起・食・登・学・下・宿・遊・自・就			
7	ほ・予・問・コ	指・い・人・ア・ 換・配・許・助・運	注・ス・LVや・元 タ・手/1・2・3	起・食・登・学・下・宿・遊・自・就			
8	ほ・予・問・コ	指・い・人・ア・ 換・配・許・助・運	注・ス・LVや・元 タ・手/1・2・3	起・食・登・学・下・宿・遊・自・就			
9	ほ・予・問・コ	指・い・人・ア・ 換・配・許・助・運	注・ス・LVや・元 タ・手/1・2・3	起・食・登・学・下・宿・遊・自・就			

「新しい社会養育
ビジョン」に見る

子どもを委託し
た後の支援

- 「里親の特徴を踏まえた支援が特に重要であり、原則として子ども担当の児童福祉司ではなく、個々の里親を担当するソーシャルワーカーが担うべきである（**里親へのスーパーバイジングソーシャルワーカー**）。また、委託後の研修についても、**里親養育の質を高めるプログラム**の開発が求められる。」

里親へのスーパーバイジング ソーシャルワーカー

- 里親は、高度の理論と技術を修得した経験豊富な指導者に、自分の支援の状態を見てもらい、間違いを修正し、より効果的な支援となるためにどうすれば良いかを指導されるべき。
(スーパーバイズを受ける)

里親養育の質を高めるプログラム

- 体系的に、総合的に、継続的に機能するもの。
- さらに、こうしたプログラムを、子どもに対して効果的に用いることができるように、スキルを身に付けるための具体的な方法、つまりスキル練習の完全なフォーマットを持っているもの。

ご清聴
ありがとうございました

里親を育て 里子を守る力



“やっくん”と子育て楽しもう会
代表 松山泰雄（養育里親）

*“When You Help a Child Today,
You Write the History of Tomorrow”
- Father Edward J. Flanagan*



一般社団法人

日本ボーイズタウンプログラム振興機構

address. 〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町 7-2-2F
tel. 03-6206-2104 | fax. 03-5539-3539 | email. info@ibpf-japan.org | url. www.ibpf-japan.org